
第4回経営協議会 議事要録

日 時 平成22年1月25日(月) 13:30～16:35
場 所 「特別会議室」(本部棟2階)
出席者 高橋議長, 田中, 村田(博), 清水, 西田, 前田, 菴谷, 河内, 桑原, 近藤, 村田(隆)の各委員(福家委員は欠席)
陪席者 森田監事, 長地監事

議事に先立ち、高橋議長から、経営協議会開催にあたっての挨拶があった。

議 事 [◇: 委員の意見, ◆: 大学側の回答]

○ 審議事項

(1) 国立大学法人等の中期目標及び中期計画の素案の修正等について

高橋議長から、資料1-1「修正を求めた意見に関する対応状況」、資料1-2「中期目標原案・中期計画案一覧表」、及び参考資料1「国立大学法人等の中期目標及び中期計画の素案の修正等について(通知)」により、国立大学法人等の中期目標及び中期計画の素案の修正等について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、審議の際出された意見は以下のとおり。

◇全国国立大学法人を対象としている「①各法人の目指すべき方向性が明らかになるよう、一層の個性化が明確となる中期目標及び中期計画とすること」に関連して更なる検討を求めること(参考資料1「国立大学法人等の中期目標及び中期計画の素案の修正等について(通知)」p.7)へはどのように対応を考えているか。

◆素案は個性化を明確にしており、修正は必要ないと考えている。

(2) 第二期中期目標期間の大学運営組織について

高橋議長から、資料2「組織図」により、第二期中期目標期間の大学運営組織について説明があり、審議の結果、委員からの意見を反映し修正を加えることとして承認された。

なお、審議の際出された意見は以下のとおり。

◇大学事業を行う学校教育法上のポストが副学長で、理事は大学設置者である国立大学法人の基

幹部分の責任を負うという整理が必要である。

◇大学の重要な役割である学術研究が不在である。「学術研究推進」等の担当を加える必要がある。

(3) センター再編計画について

高橋議長から、資料3「鳴門教育大学センター再編計画（案）」により、センター再編計画について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(4) 平成22年度学内予算編成方針について

高橋議長及び清水理事から、資料4「学内予算編成方針の一部改正の新旧対照表」により、平成22年度学内予算編成方針について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(5) 徳島労働基準監督署の是正勧告に伴う措置について

高橋議長から、資料5「鳴門教育大学附属特別支援学校に係る徳島労働基準監督署の是正勧告に伴う措置について」、及び参考資料2「新聞記事（12/26付け）」により、徳島労働基準監督署の是正勧告に伴う措置について報告があり、今後の対応について説明があった。

○ 報告事項

(1) 教職大学院教員養成特別コースに接続する学部コースの整備について

高橋議長から、資料6「教職大学院教員養成特別コースに接続する学部コースの整備構想」に基づき、教職大学院教員養成特別コースに接続する学部コースの整備について報告があった。

(2) 予算・財務について

①平成22年度予算の内示について

高橋議長から、資料7「平成22年度国立大学法人鳴門教育大学運営費交付金内示状況」に基づき、平成22年度予算の内示について報告があった。

報告事項(3)「平成21年3月卒業者の国立大学別（教員養成課程）就職状況について」及び報告事項(4)「平成22年度大学院後期入学者選抜試験状況について」については、次回報告する旨説明があった。

○ 意見交換

意見交換にあたり、村田（隆）委員から鳴門教育大学の経営に関して提言が述べられた。

各委員から出された意見は以下のとおり。

◇次期中期目標期間には、教育と研究水準に重点がおかれた評価を受けることを意識しておく必要がある。

◇鳴門教育大学は、教科専門の教員がほかの教員養成大学より多い等の利点を活かした方策が望

まれる。

◇新しい施策すべてに取り組むのではなく、鳴門教育大学での対応の適否を慎重に判断すること
も必要である。

◇暫定評価の評価結果では、研究水準の評価ウェイトが高く評価されており、これを教育に活か
す方策が望まれる。

◇経営協議会に出席した限りにおいては、大学の意識は地域との連携又は地元への貢献というよ
りも文部科学省への対応に視点がおかれていると感じた。法人化したメリットを活かした地域
への貢献が望まれる。

◇鳴門中学校校区で小中一貫教育を実施した場合に、鳴門教育大学が経営に参画する等の構想を
検討することを提案する。また、英語教育分野等において、大学の資源を活かした主導的な役
割を期待している。

◇大学の経営においては特色を打ち出すことが重要になる。遍路の取り組みは、特色があるので
GP終了後も継続するとよい。ほかに鳴門ならではの取り組みとして、自然科学のテーマとし
て「うずしお」を取り上げたり、漁業をクローズアップすることが考えられる。

◆鳴門教育大学の特色を打ち出すテーマとして「遍路」、「大村はま」、「俘虜収容所」などが考え
られる。

◇地域に密着した特色ある大学の取り組みとして、有形、無形の地域の文化、風俗をテーマにし
た大学博物館の構想が検討されてもよい。

◇本学はひとつひとつの課題に誠実に取り組んでいる。しかし、よりよい評価を獲得するため
には、課題へ対応するだけでなく、豊富な資源を活かし、優れた点を打ち出していくことが必
要である。

◇教育及び研究を行うことが大学の主な目的であることを常に認識する必要がある。その上で、
経営戦略として、マーケットを調査し、eラーニング等の手法により需要に応える組み
の導入を検討するとよい。

◇附属学校の労務管理問題では、マスコミに取り上げられることでマイナスイメージが大きい。
抜本的な対策をとることにより、今後はこのようなことが起こらないよう要望する。

高橋議長から、次回の経営協議会は平成22年3月23日（火）を予定している旨の説明があり、
閉会となった。